



開所日時 月・水・木・金曜日
15時～18時
土曜日 10時～13時

児童デイサービス



若葉の季節・・・

一面の桜色から目にも鮮やかな新緑の世界へと衣替えしました。緑の多い九品地公園は、まごころふれあい広場の前に位置していることから、子どもたちの憩いの場所になっています。九品地グラウンドの砂嵐や夏の厳しい日差しを受け止めてくれるであろう若葉たちに、私たちは強い生命力を感じます。

このような季節の変化を子どもたちはどのように感じているのでしょうか？特に送迎のバスで通学している子どもたちは木々に触れる時間もないかもしれません。

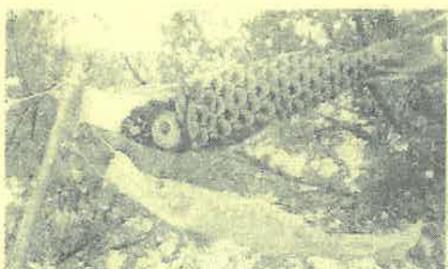
まごころ児童デイでは出来る限り、前の公園へ出かけるようにしています。四季折々の小さな自然にふれて、心豊かな人間になって欲しいと願っています。

発表目指して太鼓の練習・・・

そんな願いもあって、月2回の音楽教室では太鼓などの打楽器に触れる機会を多くしています。そして、11月のまごころふれあいまつりのステージで発表出来ればと思っています。

また、7月20日、21日にはまごころふれあい広場を開放しますので、親子の宿泊などにご利用下さい。今後とも利用者家族のご理解とご協力をお願い致します。

5月20日の木曾川作業所訪問に参加される方のご連絡をお待ちしております。



児童たちを毎日見守るコイノボリ

さまざまなケア

▼単発のケア

障害福祉で、4～5日間だけの急なケア依頼があった。家族が術後の安静が必要で関われないため、たった30分未満のケアだが、重度障害児を車イスへ移乗するケアを行なう。今までお母さんが40kgのお子さんを抱えて移乗させていた。コーディネートに伺って、住環境を見させてもらい、昇降リフトが部屋々に行き渡っているの、安全第一でケアを行なうためにもリフトを利用させてもらうことにしました。

▼入院患者の外泊ケア

長期入院されている精神障害の方、在宅で独りで暮らすには不安があり、まずはどんなことができるかを話し合いながら進める。しばらくは、外泊の度ごとに支援にはいることになりました。

▼時間調整が定まらないケア

83歳の方、透析の帰宅お迎えを行なう。腰痛症があり、やっとのことで杖歩行ができるが転倒の心配があり、見守る必要がある。透析時間がズレて、送迎車も遅れての初回ケアでした。ヘルパーは約束の時間で稼働していて、時間に見合った給与が支払われていません。何回も訪問時間がかみ合わず、時間設定をやりくりすることになりました。

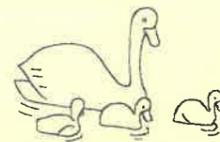
▼サービス調整の要

ケアを成立するために利用者と話し合い、調整を行なうサービス提供責任者が果たす役割は大きいといえます。また障害福祉サービスにおいては、ケアマネは存在しないため、サービス提供責任者が細かい要望等相談を直接受けて利用に結びつける必要があります。利用者にとっても、ヘルパーにとっても、よりよいケアに結びつくようケアの要を担っているといえます。



ミニデイだより

童謡の風景



4月1日にお花見に出かけ、満開の桜が迎えてくれました。江南フラワーパークへも寄り、季節の花々が心を癒してくれました。ぜひ一度、皆様もおでかけください。

あるミニデイの午後のこと・・・新聞に掲載されていた“童謡の風景”を皆で楽しみました。歌詞とその歌にまつわるお話が書かれてあり、切り絵の風景画がかわいらしく描かれていました。子どもを思い出して皆で歌い、利用者さんに一人一人お話を交互に読んでいただきました。皆さんともしっかりと読まれ、難しい漢字もすらすらと読まれました。

90歳のAさん、「日常テレビは見るけど、新聞はほとんど読むことはないね。」と言われ、大変喜ばれました。潜んでいる豊かな知識と人生の歴史から積まれた経験を受け継ぎ、楽しく喜んでいただける時間を大切にしたいと再認識しました。

ハーモニカが得意なTさん、71歳歌と短歌が好きなひとつ上のOさん、お誕生日おめでとうございます！



薬の博物館にて

4月1日は一宮市の福祉バスでフラワーパーク江南と写真にもありますようにエーザイの薬博物館を訪問しました。昔懐かしい薬から認知症薬のアリセプトまで紹介コーナーがありました。

シリーズ1

高齢者の食事について考える・・・

老化による「食べる力」の低下は、さまざまな機能の低下によって起こります。そうした変化は誰にでも起こることではあっても、きちんと対応することで、そのスピードを遅らせることは可能です。

◆ 老年期の食事は病的老化を防ぐ要

「人間は血管とともに老化する」と言われるように、動脈硬化は病的老化を招きます。動脈硬化の引き金となる、肥満、高血圧症、糖尿病を防ぐ基本は、必要な栄養をバランスよく適量にとることが最大の要です。

◆ とともに食べる楽しさは最高の調味料

どんなごちそうでも、ひとりモクモクと食べたのではおいしさも半減。消化液の分泌も滞り、栄養の代謝吸収も悪くなってしまいます。家族そろってだんらんを楽しみながら食事することは、本来自然なことです。

◆ 口から食べることは

食べる意欲を生む

かむことによる刺激は、大脳の働きを活発にしてボケ防止になるともいわれます。さらにおいしいと感じた快感は、食欲を引き起こしたり、生きる喜びを感じさせ、免疫力をも高めます。まさに、口から食べることは生きる意欲に直結しています。

